



蔓延する新型ウィルス、パンデミック下で強行される五輪、そして顕在化する不平等や分断。「私たちが直面している危機は、COVID-19 によるというよりは元来グローバル資本主義ないしネオリベラリズムという災厄によるものである」

私たちはみな、

資本主義という恒常的な災害の被災者である。

パン（金）も、バラ（尊厳）も、両方よこせ！

# 生きるためのフェミニズム パンとバラと反資本主義

堅田香緒里

2021年  
7月下旬  
発売

予価 1,700 円+税

四六判・並製・192 頁 ISBN978-4-907053-49-9 C0095



表紙作品  
フェミニスト手芸グループ 山姥

女性の活躍、ケア労働、路上生活、再開発、生活保護……あらゆる格差、貧困、分断の問題を最新のフェミニズムの視点から読み解き、国内外の事例から日常的で具体的な抵抗の方法を探る。気鋭の社会学者、初の単著です！

【本書で取り上げているテーマの一部です】 移民女性労働者たちのストライキ／「活」という名の妖怪／ネオリベラリズム／"偽装"フェミニズム／家事労働に賃金を／グローバルな女たちのストライキ／ベーシックインカム／99%のフェミニズム／パンデミックにおけるケアインカムの要求／再生産労働／シャドウワーク／個人的なことは政治的なこと／路上／ホームレス調査／無菌化された労働力商品／ジェントリフィケーション／日常の抵抗運動／観光客とクレンジング／抵抗する庭／スクウォッティング／「開発」と家父長制／差別の交差性（インターセクショナルリティ）／路上のホモソーシャル空間／ロンドン・ラティクス／セーフスペース…

【著者】

堅田香緒里 かただ・かおり

静岡県生まれ。東京都立大学大学院社会科学部博士課程修了。博士（社会福祉学）。現在、法政大学社会学部教員。専門は社会福祉学、福祉社会学、社会政策。主な著書に、エノ・シュミット／山森亮／堅田香緒里／山口純『お金のために働く必要がなくなったら、何をしますか？』（光文社新書、2018年）など

「はじめに」より  
女だからといって、派遣労働者だからといって、仕事や収入を失ったからといって、野宿者だからといって、トランスジェンダーだからといって、殺されてたまるか。誰かの「安全」のために、別の誰かの命や尊厳が犠牲にされるような社会はもうごめんだ。この本は、こうした思いに共鳴して書かれたものである。

FAX : 03-6736-0689 タバックス宛

◎取次=JRC tel 03-5283-2230 fax 03-3294-2177  
JRCを通して全ての取次への出荷が可能です。  
◎返品は無期限で承ります【返品了解者：宮川】

貴店番線印	ご注文数	タバックス	人文社会／女性問題	返
ご担当 様		<b>生きるためのフェミニズム</b> <b>新刊</b> パンとバラと反資本主義 堅田香緒里 著 2021年7月下旬 予価 本体 1700円+税 ISBN978-4-907053-49-9 C0095		品
ご担当 様		<b>失われた賃金を求めて</b> イ・ミンギョン 著 小山内園子・すんみ 訳 978-4-907053-47-5 1700円+税 2021年2月発売		条
ご担当 様		<b>私たちにこそ必要だ</b> <b>6刷</b> フェミニストは黙らない イ・ミンギョン 著 すんみ・小山内園子 訳 978-4-907053-27-7 1700円+税 2018年12月発売		件
				付
				き
				注
				文
				扱
				い